足立区教育委員会指導力向上中核校

渕江小学校　外国語活動・ 外国語科研究通信

第８号
令和６年２月

今年度第8回目、最終回となる外国語活動・外国語科の研究授業を 鶴田 大樹 教諭が行いました。協議会では、中間指導の効果の総まとめ、本授業における指導について協議を行いました。指導・講評では、文部科学省初等中等教育局視学官 直山 木綿子先生よりご指導いただき研究を深めました。

研究主題

関わり合い、学びを広げ、深める児童の育成
～思いを豊かに表現できる授業づくりを通して～

授業者：4年１組 担任 鶴田 大樹 教諭
単元名：「渕江小のお気に入りの場所を紹介しよう！」
指導講評：文部科学省初等中等教育局視学官 直山 木綿子先生 より

〈研究経過報告〉

研究の視点について

視点1　目的や場面、状況等を明確にした言語活動の工夫

単元の初めに最終活動を提示することで、児童が見通しや意欲をもてるようにした。今回はポール先生に協力してもらい、「渕江小のお気に入りの場所を紹介しよう！」という最終活動を設定した。児童の実態にあった目標を設定することで、「渕江小学校のよさを紹介したい、知らせたい」と、児童の意欲を向上させ、何のために行っているかという目的意識をもたせる。

視点2　表現を繰り返し使うための工夫

クイズを出したり、教師のやり取りを見せたりする中で、自然に新出単語や、表現と出会うようにしている。教師の後に続いて同じことを繰り返し言うのではなく、教師や児童、児童同士で何度もやり取りする中で、自然と何回も繰り返し言うことができるような授業展開にしている。そこから児童同士がやり取りする中で、分からなかったことを学級全体で共有・解決し、児童が自信をもって自分の思いや考えを伝え合えるようにする。

視点3　効果的な中間指導

中間指導のねらいを明確にすることで、児童に身につけさせたい力を明確にし、児童がめあてを達成できるように意図的に授業を展開する。何のために中間指導をするのか。その中間指導で何を期待するのかということをはっきりと教師側がもち、深まりや広がりを意識した授業展開にする。

〈授業者自評〉

教科書における単元の内容は、「おすすめの場所を紹介する」ものであるが、今回は、渕江小学校の4年生の実態を踏まえ、単元目標には、ALT の先生に、自分たちの親しみが深い目標を紹介することを目標とすることで、児童の意欲が高い状態で単元がスタートできた。

本単元においても、言語活動・中間指導を中心に英語力の向上を目指してきた。それに加えて、「話すこと」についても取り組んでいく必要があると感じているため、今回を契機に学校全体で深めていきたい。

〈研究協議会〉

単元目標について

・ALT の先生に自分たちの学校の良さや自分たちのことを知ってもらうために、相手に伝わるように工夫しながら、校内のお気に入りの場所や理由について知る。（4 年談）
・めあての大切さを改めて確認する。毎時間確認をしているか。（原・千寿小）
・道案内ばかりに終始しない方がいい。（清水先生）

▪「学校」を題材にして行う活動はよかった。同じ認識をもって伝えあっているから、友達のフォローも入りやすく、コミュニケーションがスムーズに進んでいた。話を広げようとする子どもたちの意識が素晴らしかった。（中学校より）

中間指導について

・中間指導をする際、児童から出てくる「～が言いたいけど、言えなかった。」という発言に対して、道案内をするのかどうかについて指示を明確にしてから、指導に入った方がよかった。
・授業準備を丁寧に行っているので、子供たちのつぶやきや気付きをもっと拾っていくような「余裕」が生まれてくるとよい。授業そのものに遊びがなく、指導書通りなので、実態に合った授業を目指してみてはどうか。
・中間指導に入る前か授業の導入部などで、抑えたい文章、文の形の全体把握をする時間があってよい。

話す・聞くことの指導について

・話す・聞くことが中心の授業で中学年のわりに、所要時間が短かったのではないか。
→中学校は文法指導中心、文法を手がかりに話し方を学習する。小学校は、聞き慣れていること、話し慣れていることを書き写すため、如何（いか）に言語活動の中で習得させられるのかが重要であると考えている。言語活動とのバランスが大切である。

《指導・講評： 文部科学省初等中等教育局視学官　直山　木綿子　先生**》**

・ワークシートで文章を話す・聞く際に、注意点を丁寧に確認することで、英語学習の障壁をなるべく少なくする工夫があってよかった。
・めあての提示がストレートで一見、分かりやすいがもう少し冒険（遊び）があってもいい。硬い授業。子供たちが、教師が求めている答えのみを答えなければならない印象。
・中間指導の際、「みんなに会いたい⇒I like　my　friend.」と変換したのはうまかった。既習事項をおさえつつ、中間指導を行っていた。

中間指導の在り方

・中間指導を大切にしているが、何を重点にしているかが大切。あらかじめ教育的な意図を考えて中間指導をしなければ、身に付けるべき英語から逸脱することもある。複数回中間指導を行う場合は、「1回目は、この指導内容を、2回目は、、、」と、指導ポイントについてあらかじめ計画を立てた上で進めていけるとよい。

モデルの提示とタイミング

・本単元において、教師のおすすめを紹介するビデオを授業冒頭に流したのはよかった。児童も意欲が高まったと同時に、表現の確認にも役立っていた。また、自分は何を紹介しようか思考を深める時間にもなったのではないか。
・モデルを提示するタイミングは、毎回授業冒頭でなくてもよい。授業ごとに提示すべきタイミングを図って行うべき。例えば、中間指導の際に、児童が表現する内容に困っているのであれば、その際に提示すれば効果はより高い。

学習環境

・「話す・聞く指導」を行う上で重要な要素の一つとして、学習環境や用具の整備がある。今回の授業内で、短い鉛筆を使っている児童が何人かいた。特にふりかえりを記入する際は、適切な長さの鉛筆と適切な姿勢を意識させるべきである。

「小学校段階においては、言語活動がメインになる。現在研究を進めている、「言語活動の充実」、そしてそのための「中間指導」をより一層高めるとともに、「話すこと」の基本的なことを実行していってほしい。」